

九月廿日紡績部代表八名は會社側車役榮國氏に會ひ、前日の事業不況による不當解雇を否認し、

イ日本に於ける紡績工業は現に夜未禁止其の他の理由に依り、紡績機械の製作は尙ほ當()に來り望むる事

ロ會社は、今後工場閉鎖の後も紡績機械製作の準備を持つて居る事

ハ會社は現に、會社全体として不況にあらす、工機部其の他に技工を雇入れて居る事等の事實を指適して、斷乎不當解雇を拒絶した。此の時會社側は態度を一變し、解雇理由とし

イ技工の不熟様 ロ製作上の不良

等をつけて事柄の責任を吾々労働者の上に轉嫁せんとしたのだ。吾々は又此等の暴言に對して一々反した

イに對しては、一切の製作品は設計課の設計通りに製作、検査中の検査を受けて賃金支拂を受けて居る事實

ロに對しては、且つて東洋紡績株式會社に納入の機械は會社より絶大の賞讃を博したる事實等として、る事業不振の理由が決して労働者の責任にあらざることを明瞭にし、

會社も亦一の事實を承認したのである。かくていづれの方面よりするも會社の出した理由は遂に埋山はならない。吾々は更に追窮するとき工場閉鎖すべき深刻な理由は俄然外にあった。それは會社と労働者との中間に於ける會社經營上の驚くべき欠陥があるのだ。こゝに吾等は必死的に今労働者の上に重なる壓迫を感ぜざるを得ない

京濱労働技友會奮起す

今度の紡績部の解雇は、こゝに於て正に京濱労働技工會への挑戦である。挑まれたる資本家其の闘争に對して技友會は起たざるを得ぬ。かくして争議は本部、進つた。徹底的に戦ふべき對策を決定して一切の機關は充實した。廿日午后よりまた會社は不滿意頗るである。瓦斯電氣従業員は遂に總意案を執行するの止むなきにやつた。吾々は同志を見殺しにする事は出来ない、そして全従業員の決意は鐵の様に固い。

全労働者諸君に訴ふ!

以上の經過を綜するに會社は尙ほ吾々に對して、何等人間の誠意を持たない彼等の眼中には自己の利益外には何物もない。そして度彼等が不利益であるなら會社の社長松方正郎氏が極力主張する温情義も、認るべし暴力主義と化するのだ。資本主義の社會は極悪無道だ。吾々は今紡績部工場閉鎖が以上の如き理由と經過とに依つて行はれ決して吾々技友會が輕率冒助するのではないことを聲明する。然かも争議は漸次具體化する前途には多くの機關が横たはる。勝か、又敗れるか。吾々は高き労働組合旗を掲げて進む

全労働者諸君!!!
日本労働組合總聯合諸君!!!
吾々の陣營を有力ならしめよ!!!
吾々の戦闘を意義あらしめよ!!!

大正十五年九月二十六日

關東地方労働組合聯合會
京濱労働技友會

機械

電氣

印刷